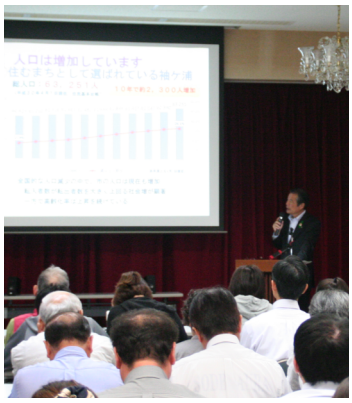
～市長が語る～「わがまちの今・これから」主な質疑応答の要旨

日　時：平成３０年５月１６日（水）１８：３０～２０：００
場　所：袖ケ浦市民会館　３階中ホール
出席者：市長、企画財政部長、企画課長、財政課長、秘書広報課長　他
参加者：９３名（男性６４名・女性２９名）

【市長説明項目】
第１部　わがまちの「今」
第２部　わがまちの「これから」

【主な質疑応答の要旨】



参加者：高速バスについて伺います。木更津市にある金田のバスターミナルではハブ化をしていますが、袖ケ浦市では県内からの乗り継ぎや、ガウライナーの利用促進策等についてどのように考えていますか。また宅地の多い福王台にバス停を作ってください。

市長：袖ケ浦のバスターミナルでは、年間１１０万人を超える人が利用しています。金田バスターミナルの利用者が伸び悩んでいることから、自治体からの要望により、袖ケ浦バスターミナル発のバスの一部が金田のバスターミナルに停まるようになりました。ハブ化をして金田で乗り換え等をして、東京や神奈川に行こうとするものですが、高速バスの利用者は出発点を決めて目的地へ向かう人が多いので、乗り継ぎをする人が多いかどうかは不明です。また、ハブ化には、バスターミナルの拡張や料金の精算方法など、課題が出てきます。

　ガウライナーについては、利用者が増えてくれば、様々な対策が必要となりますが、鍛冶橋駐車場は一杯であり、これ以上増やすことが難しい状況ですので、バス会社の様子を見て要望します。

　福王台のバス停については、乗降場所が多いと、目的地に着くまでに時間を要することになり、高速バスの目的が果たせないことから難しいです。

参加者：高齢者施策以外で、袖ケ浦市の優先度の高いものは何ですか。

市長：事業を展開するうえで、優先順位をつけるのはとても難しいです。若い人や高齢者など、状況によってそれぞれの優先順位が違います。総合計画を作るために市民の意見を聞いて課題を考えると、昭和地区や長浦地区は人口が増加しているので、発展している感覚がありますが、平川地区では人口が減少しており、子どもも減り、賑わいの喪失感があります。地域や年代ごとのバランスをとることは難しいのですが、市民が安全で安心して暮らせることが大切です。高齢化が進む中、公共交通など高齢者の足の確保は優先度が高いと思います。その他にも、高齢者の入所施設の確保等の対策や子育て施策など、市税収入が減少し、予算が限られる中、選ぶのはとても難しいことです。

参加者：障がい児に対する施策として、本人や家族の抱えている問題についても考えてください。

市長：障がいをお持ちの方への施策として、袖ケ浦市では福祉施設や障がい者施設は県内でも人口割でみると多い方です。保育所の入所に際しては、障がいの状況によっては、保育士を特別に配置して預けることができるよう支援をしています。学校においても、特別支援教員での対応や、状況に応じて支援を必要とする子に対応するクラスを設けています。また、相談も受け付けていますので、サービスや施設についての相談に乗ることもできます。共生社会を前進させる取り組みが必要だと思います。

参加者：副市長人事について、室長の設置をどう考えているのか。

市長：副市長の不在より市政の停滞を招いてはいけません。空白期間が長くなれば停滞の恐れが出てくることから政策調整室を作り、市の課題に対応できるようにしたものです。